

# 保育内容に関する保育者のコンピテンシーの研究動向と課題

井上 祐子<sup>1)</sup>・姜 民護<sup>2)</sup>・高橋 順一<sup>3)</sup>・黒木 保博<sup>4)</sup>

## 和文要旨

本研究は、保育者のコンピテンシーに関する国内外の研究論文を対象に、特に保育内容に着目して、今後の研究課題を明らかにすることを目的とした。研究論文の収集には、「CiNii」と「ERIC」を使用した。最終的に9件の保育者のコンピテンシーに関する研究論文において、定性的研究と定量的研究に着目し、保育内容が言及されているか否かを吟味した。その結果、これまで保育内容に関する保育者のコンピテンシーにおいて、定性的研究及び定量的研究はほとんど見当たらなかった。以上の結果は、保育内容に関する保育者のコンピテンシーの研究の必要性を示唆するものである。

キーワード：保育内容 保育者 コンピテンシー 定性的研究 定量的研究

## I. 序論

経済協力開発機構（2018）などの国際機関で幼児教育や保育を「Early Childhood Education and Care (ECEC)」と表記していることから明らかに、子ども達の教育と保育（ケア）は切り離せるものではない。我が国においても子ども・子育て支援新制度は、幼児期における質の高い学校教育・保育提供を目的に、保育の仕事に教育機能を含む方向性を示している。また、保育所は児童福祉施設のひとつではあるが、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との3法令において、3歳以上児の保育に関するねらいと内容との整合性が図られている。例えば、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」と

1) 鹿児島純心女子大学人間教育学部

2) 同志社大学社会学部嘱託講師

3) 地域ケア経営マネジメント研究所

4) 同志社大学名誉教授

いった保幼小接続を意識した幼児教育を新たに担うことが求められている。このように国内外において教育と保育との関連性が明記され、重視されている。

しかし、幼児教育は、保育内容5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を中心に行われており、教科を中心とする小学校以上の教育と異なっていることから、幼児教育と小学校教育との接続には難しさがある。本研究では、教育と保育との関連性が重視されながらも、幼児教育と小学校教育との接続に難しさがあることを考慮し、保育者による保幼小接続につながる保育実践の一助となることを目指している。具体的には「成果を上げ続けることのできる行動特性」「再現性のある成果行動能力」「高業績者の行動特性を分析し、その能力から必要スキルを抽出し、評価に活用する」上で有効とされるコンピテンシー（能力評価の概念）に着目する。

そこで、本研究では、保育能力の向上及び保育の質の向上への示唆を得ることをねらいに、保育内容に関する保育者のコンピテンシーについて国内外の研究論文を整理し、今後の研究課題を明らかにすることを目的とした。

研究論文の収集において、国内文献の検索には「CiNii」（NII 学術情報ナビゲータ[サイニィ]）を用い、このときの検索キーワードは「保育 AND コンピテンシー」とした。海外文献の検索には「ERIC」（Education Resources Information Center）を用い、このときの検索キーワードは「Child Care AND competency」とし、「Peer reviewed only」「Full text available on ERIC」という検索対象指定を行った。これらのデータベースから抽出された文献は、次の①～⑦の選定基準に沿って絞り込んだ。その選定基準は、①重複文献は削除すること、②出典不明の文献は削除すること、③インタビュー、書評、報告書、エッセイ及び会議資料は除くこと、④保育者と保育専攻の学生を研究対象としていること、⑤幼児教育及び保育について検討していること、⑥保育者のコンピテンシーについて検討していること、⑦信頼性・妥当性の検証手続きがなされていることである。

なお、倫理的配慮として、「日本社会福祉学会 研究倫理指針 第2 指針 内容 A 引用」に基づき、先行業績の検討に際しては、現著者名・文献・出

版社・出版年・引用箇所を明示し、自説と他説との峻別を行った。

## Ⅱ. 本論

### Ⅱ－ 1. 分析に用いた研究論文の概要

論文検索を行った結果、国内から 20 件、海外から 16 件、合計 36 件が抽出された（検索実施日 2019 年 4 月 10 日）。これら 36 件に対し、先述の①～⑥の選定基準に沿って分析対象（文献）の選定を試みた。

36 件のうち、まず、重複している文献 1 件（内田 2018）<sup>1)</sup>、エッセイ 2 件（Johnson 2004；Hargrove 2010）を除いた。出典不明の文献は 0 件であった。次に、保育者と保育専攻の学生が研究対象ではなかったため、里親への支援に関する文献 1 件（Chipungu,et al.2004）、児童虐待予防に関する文献 1 件（Waldfoegel 2009）、保育環境マネジメントに関する文献 1 件（倉田 2012）、幼児教育における子どもを対象としたコンピテンシーに関する文献 5 件（ランブレヒト 2013；中西 2014；渡邊 2014；中西 2016；和田 2017）、ケニアでのインクルーシブ教育における特別なニーズを持つ学生への対応に関する文献 1 件（Gathumbi,et al.2015）、ケニア都市部の貧困地域における 0 歳から 3 歳までの子どもの健康と教育の人為的格差に関する文献 1 件（Munene,et al.2016）、教育統計 3 件（Snyder 2016；Snyder 2018；Snyder 2019）、ルーマニアにおける幼児教育及び保育サービス（ECEC）の質に対する両親の評価に関する文献 1 件（Matei,et al.2018）、アメリカと他国における幼児教育に関するベストプラクティスを比較検討した文献 1 件（Navarro,et al.2018）を除いた。また、幼児教育及び保育について検討していないため、家庭科のカリキュラムに関する文献 1 件（荒井ほか 2007）、先進諸国の人的資本力問題に関する文献 1 件（平田 2007）を除いた。最後に、保育者のコンピテンシーについて検討していないため、子育て支援に関する文献 4 件（汐見 2006；汐見ほか 2007；川村ほか 2016；三好 2017）、大学における子育てに関する専門科目の理論的枠組みの適合度に関する文献 1 件（Tweeikat,et al.2014）、保育者養成政策における保育者研修登録データの有用性に関する文献 1 件（Ackerman 2016）、保育者養成課程におけ

る授業・教授内容に関する文献1件（前2017）を除いた。その結果、保育者のコンピテンシーに関する研究論文として、国内の研究論文6件（高山2008; 入江2011; 岡田2015; 平田ほか2016; 中村ほか2016; 内田2018）、海外（アメリカ・デンマーク・フィンランド）の研究論文3件（Happo,et al.2011; Ryan,et al.2011; Aarkrog,et al.2015）、合計9件が分析対象の文献として抽出できた（文末資料1）。

分析対象である研究論文9件の概要は以下の通りである。高山（2008）は、コンピテンシー理論の概要と医師の養成課程におけるコンピテンシー理論の活用方法を参考にして、保育士の専門性確保におけるコンピテンシー理論の有効性と限界について考察している。Happo,et al.（2011）は、幼稚園教員の能力を持つ幼児教育者の専門知識として、社会的な認識、組織的な知識・技術、子どもの成長に関する知識、協力とコミュニケーションの知識、教育的知識を明らかにしている。入江（2011）は、「保育士・教師のコンピテンシー」及び「ナラティブ能力」の大切さを考察している。Ryan,et al.（2011）は、保育者のためにコンピテンシーを明確にし、高等教育機関が幼児期の指導力育成プログラムを開発することを示唆している。Aarkrog,et al.（2015）は、調理師資格、あるいは幼児教育に関する資格の取得を目指して入学した職業教育訓練大学の学生を対象にしており、このうち、幼児教育に関するコンピテンシーとして11項目<sup>2)</sup>を示している。岡田（2015）は、インタビュー調査の結果から、コミュニケーション能力に特化したコンピテンシー要素<sup>3)</sup>として6要素を抽出している。その後、「保育士のコミュニケーション・コンピテンシー尺度」を作成して、保育士を対象とした「保育士のコミュニケーション能力養成講座」（5回）を開講し、講座前後及び半年後の効果測定を行っている。平田・井狩・相馬ほか（2016）は、保育業界のニーズに対応したキャリア開発科目・学習評価・インターンシップの高次化を推進した実践記録から、保育養成校のキャリア教育で求められる保育者のコンピテンシーは、一般の学士課程で求められる社会人の基礎力に共通するものであるとしている。中村・水上（2016）は、保育士と介護福祉士のコンピテンシーの抽出とコンピテンシー評価尺度を作成し、その

信頼性と妥当性について検討している。内田（2018）は、アメリカ合衆国コロラド州の園評価及び保育者の専門性指標と連動した研修システム開発に関する調査を報告している（文末資料2）。

## Ⅱ－2. 分析に用いた研究論文における研究対象及び方法、内容

研究論文9件の研究対象は、保育者を対象とした文献が7件（高山2008；Happo,et al.2011；入江2011；Ryan,et al.2011；岡田2015；中村ほか2016；内田2018）、学生を対象とした文献が2件（Aarkrog,et al.2015；平田・井狩・相馬ほか2016）、介護福祉士を対象とした文献が1件（中村・水上2016）、教師を対象とした文献が1件（入江2011）であった。

採用している研究方法は、重複しているものもあるが、定性的研究7件（高山2008；Happo,et al.2011；入江2011；Ryan,et al.2011；Aarkrog,et al.2015；平田・井狩・相馬ほか2016；内田2018）、定量的研究1件（中村ほか2016）、定性的および定量的研究1件（岡田2015）であった。

研究内容では、コンピテンシー理論に関する研究1件（高山2008）、コミュニケーション能力や対人関係行動等に関する研究3件（Happo,et al.2011；岡田2015；中村ほか2016）、ナラティブ能力に関する研究1件（入江2011）、指導力育成プログラム、キャリア教育及び研修システムに関する研究3件（Ryan,et al.2011；平田ほか2016；内田2018）、運動能力、健康等に関する研究1件（Aarkrog,et al.2015）が先行研究として取り組まれてきたが、保育内容に関する保育者のコンピテンシーについて取り組んだ先行研究は見当たらなかった（文末資料3）。

## Ⅱ－3. 研究方法からみる研究課題

今回の分析に用いた研究論文9件の研究方法は、前記したように定性的研究が7件、定量的研究が1件、定性的および定量的研究が1件であった。その詳細は以下の通りである。

定性的研究7件のうち、文献研究は3件（高山2008；入江2011；内田2018）、自由記述式質問紙調査（内容分析）は1件（Happo,et al.2011）、インタビュー調査は3件（Ryan,et al.2011；Aarkrog,et al.2015；内田2018）、観察調査1件（Aarkrog,et al.2015）、実践記録1件（平田・井狩・相馬ほか2016）であった。定量的研究1件は、アンケート調査（中村ほか2016）で行われていた。定性的および定量的研究1件は、インタビュー調査とアンケート調査（岡田2015）で行われていた。

これら9件に対し、保育能力の向上及び保育の質の向上への示唆を得ることをねらいとして、先述の⑦の選定基準に沿って、信頼性・妥当性の検証手続きがなされている分析対象（文献）の選定を試みた。その結果、2件の研究論文（岡田2015；中村ほか2016）を抽出した。研究方法における研究課題では、内容的妥当性と構成概念妥当性に着目し、それぞれに適切な統計学的手法が採用されているか否かを検討した。内容的妥当性は、①探索的因子分析が最尤法もしくは最小二乗法を用いてなされているか（豊田2000）、②因子抽出における回転法は直交回転ではなく因子間に相関を認める斜交回転であるか（豊田1998）を評価基準とした。また構成概念妥当性に関しては、③構造方程式モデリング（Structural Equation Modeling）を用いて確認的因子分析がなされているか（豊田1998）を評価基準とした（高橋・黒木・中嶋2014；孟2015；山本・西村・山口・出井・中嶋2017；西村・出井・中嶋・山口2017）。

中村ほか（2016）の研究では、保育士・介護福祉士コンピテンシー尺度の作成において、因子抽出法が主因子法であり、因子抽出における因子軸の回転法として斜交回転（プロマックス回転）が採用されていた。また、岡田（2015）の研究では、インタビュー調査から得た保育士のコミュニケーション・コンピテンシーの6要素に対し、行動レベル0～5での6段階評定を採用して、一元配置分散分析が行われていた。しかし先述の6要素について、内容的妥当性の検討のために探索的な因子分析は行われていなかった。

本研究が採用した統計的評価基準が先行研究の妥当性を評価するすべての方法ではないが、内容的妥当性と構成概念妥当性が確認された保育内容に関する保育者のコンピテンシーの先行研究は見当たらなかった（文末資料4）。

### Ⅲ. 結論

本研究では、保育能力の向上への示唆を得ることをねらいとして、保育内容に関する保育者のコンピテンシーについての国内外の研究論文を整理し、今後の研究課題を明らかにすることを目的に行った。その結果、分析に用いた研究論文において、信頼性・妥当性の検証手続きがなされている分析対象（文献）は2件あったが、内容的妥当性と構成概念妥当性が確認された保育内容に関する保育者のコンピテンシーの先行研究は見当たらなかった。

2020年代から学習指導要領の全面改訂が予定される中、子どもの育ちは、幼児教育から小学校、中学校、高等学校まで一貫してとらえられ、幼児教育と小学校教育との円滑な接続が一層重視されている。今後、保育者に保幼小接続を意識した幼児教育を求められる中、幼児教育と小学校教育との円滑な接続の一助として、保育内容に関する保育者のコンピテンシーについて妥当性のある尺度を開発して研究を蓄積していくこともまた、保育能力の向上、及び保育の質の向上への示唆を得ることをねらいとする上で、課題の一つとして考えられよう。

### 付記

本論文は、日本社会福祉学会第67回秋季大会の口頭発表原稿を基に、一部加筆修正をして作成したものです。

### 注

- 1) CiNii では、さまざまな機関が提供しているデータベースのデータを収録しており、データベース毎に検索結果が示される。このため、ライフデザイン学紀要とライフデザイン学研究の2機関にデータが収録されている研究論文（内田 2018）を重複した文献とした。
- 2) 11項目とは、①教育的プロセスを達成すること、②身体的、音楽的、文化的、実践的な活動を開発、計画、達成、および評価すること、③身体的お

よび運動的スキルに関する知識に基づき、経験に対する喜びを高めるための動機付けをすること、④感染症の予防を含む、健康の増進と病気の予防、⑤言葉や表現力を刺激すること、⑥感謝の気持ちを支援する、発展的なコミュニケーションへ参加すること、⑦重要な決定を仲介すること、⑧人々が公的及び私的なサービスを受けられるよう支援すること、⑨職業内の規則および法律に従って、計画、実行、熟考し、業務実践基盤を開発すること、⑩暴力の防止が経営陣と従業員の相互の責任となるように職場の環境づくりに参加すること、⑪情報の検索、コミュニケーション、業務計画、実践の文書化にICTを採用すること、であった。

- 3) コミュニケーション能力に特化したコンピテンシー要素として、①問題の発見（情報収集）、②話の聴き方（対子ども）、③話の聴き方（対保護者）、④連携、関係づくりの範囲、⑤創意工夫、及び⑥危機介入の6要素が抽出された。

## 文献

- Aarkrog, Vibe; Wahlgren, Bjarne. (2015) Assessment of Prior Learning in Adult Vocational Education and Training. *International Journal for Research in Vocational Education and Training*, 2 (1) , 39-58.
- Ackerman, Debra J. (2016) Using State Early Care and Education Workforce Registry Data to Inform Training-Related Questions: Issues to Consider. Research Report. *ETS RR-16-31. ETS Research Report Series*.
- 荒井紀子・塚倉知美 (2007) 「PISA, DeSeCo にみる今日的学力と家庭科」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』50, 9.
- Chipungu, Sandra Stukes; Bent-Goodley, Tricia B. (2004) Meeting the Challenges of Contemporary Foster Care. *Future of Children*, 14 (1) , 75-93.
- Gathumbi, Agnes; Ayot, Henry; Kimemia, John; Ondigi, Samson. (2015) Teachers' and School Administrators' Preparedness in Handling Students with Special Needs in Inclusive Education in Kenya. *Journal of Education*



- and Practice*, 6 (24) , 129-138.
- Happo, Iris; Määttä, Kaarina. (2011) Expertise of Early Childhood Educators. *International Education Studies*, 4 (3) , 91-99.
- Hargrove, Kathy (2010) "If I Had Only Known . . .". *Gifted Child Today*, 33(1), 14-15.
- 平田潤 (2007) 「日本のヒューマン・キャピタル・クライシス -- 先進諸国の『人的資本力』問題に関するノート」『桜美林大学経営政策論集』7 (1) ,1-39.
- 平田美智子・井狩芳子・相馬靖明他 (2016) 「保育養成校におけるキャリア教育」『和泉短期大学研究紀要』36, 87-98.
- 入江良英 (2011) 「『変革期の教育学・保育学』に関する一考察：『新しい能力論（ポスト近代型能力）』『コンピテンシー』『埼玉純真短期大学研究論文集』4, 1-9.
- Johnson, Andrew (2004) No Child Left Behind: The Emperor Has No Clothes. *International Journal of Whole Schooling*, 1 (1) , 8-12.
- 川村めぐみ・松岡依里子・大本久美子・望月一枝・齋藤美重子 (2016) 「グローバル社会と『保育・家族』のカリキュラム開発の課題：子育て世代へのグループインタビュー調査から」『日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』59,3.
- 倉田新 (2012) 「保育環境マネジメントにおけるヒューマン・リソースについての考察」『東京都市大学人間科学部紀要』3, 45-64.
- ランプレヒト マティアス (2013) 「保幼小連携における移行期の理論と実践モデル：統一後ドイツの動向を中心に」『東京家政大学研究紀要』53 (1) , 13-21.
- 前正七生 (2017) 「幼小連携を意識する『新たな』教育課程の現状と課題：養成教育からみたコンピテンシーベースの新学力・子ども観による評価可能性」『淑徳大学短期大学部研究紀要』56, 15-30.
- Matei, Aniela; Ghenta, Mihaela (2018) Quality of the ECEC Workforce in Romania: Empirical Evidence from Parents' Experiences. *Education*

*Sciences*, 8 (2) .

孟浚鎬 (2015) 「高齢者の自殺念慮測定尺度に関する批判的論評」『評論・社会科学』115,27-41.

三好年江 (2017) 「保育者養成課程における『子育て支援力』育成の取り組みの評価 (その2) 子育て支援コンピテンシーを分析の枠組みにした記録の内容分析」『新見公立大学紀要』38, 125-133.

Munene, Aurelia; Okwany, Auma. (2016) Interrogating the 'Artificial' Divide between Health and Education for Children Aged 0-3 Years in Urban Poor Locales in Kenya. *South African Journal of Childhood Education*, 6 (2) , 465.

中村誠司・水上勝義 (2016) 「保育士・介護士コンピテンシー尺度の提唱」『未来の保育と教育: 東京未来大学実習サポートセンター紀要』3, 53-60.

中西さやか (2014) 「ドイツにおける保育の教育的課題の概念化をめぐる議論」『教育学研究』81 (4) , 473-483.

中西さやか (2016) 「ドイツにおける幼児期の学びのプロセスの質をめぐる議論」『保育学研究』54 (2) , 28-36.

Navarro-Cruz, Giselle Emilia; Luschei, Thomas F. (2018) International Evidence on Effective Early Childhood Care and Education Programs: A Review of Best Practices. *Global Education Review*, 5 (2) , 8-27.

西村夏代・出井涼介・中嶋和夫・山口三重子 (2017) 「看護師のワーク・モチベーション測定尺度に関する批判的論評」『ヒューマンケア研究学会誌』8 (2) , 1-7.

OECD (2018) Early Childhood Education and Care – Home  
(<http://www.oecd.org/education/school/earlychildhoodeducationandcare.htm>, 2018.8.25)

岡田倫代 (2015) 「保育士のコミュニケーション能力向上に関する研究」『地域環境保健福祉研究』18 (1) , 19-28.

Ryan, Sharon; Whitebook, Marcy; Kipnis, Fran; Sakai, Laura. (2011) Professional Development Needs of Directors Leading in a Mixed Service

- Delivery Preschool System. *Early Childhood Research & Practice*, 13 (1) .
- 汐見和恵 (2006) 「保育者の役割と保育者に求められる専門性－今求められている子育て・子育て支援のコンピテンシー」『こども教育研究所紀要』2, 31-42.
- 汐見和恵・武田信子 (2007) 「保育者に求められるコンピテンシー：地域子育て支援における支援者のコンピテンシー研究からの考察」『東京文化短期大学紀要』24,62.
- Snyder, Thomas D.; de Brey, Cristobal; Dillow, Sally A. (2016) Digest of Education Statistics 2014, 50th Edition. NCES 2016-006. *National Center for Education Statistics*.
- Snyder, Thomas D.; de Brey, Cristobal; Dillow, Sally A. (2018) Digest of Education Statistics 2016, 52nd Edition. NCES 2017-094. *National Center for Education Statistics*.
- Snyder, Thomas D.; de Brey, Cristobal; Dillow, Sally A. (2019) Digest of Education Statistics 2017, 53rd Edition. NCES 2018-070. *National Center for Education Statistics*.
- 高橋順一・黒木保博・中嶋和夫 (2014) 「社会福祉領域で使用されている QOL 測定尺度に関する批判的論評」『評論・社会科学』111, 113-124.
- 高山静子 (2008) 「コンピテンシー理論に基く保育士養成課程の考察」『保育士養成研究』26, 23-32.
- 豊田秀樹 (2000) 『共分散構造分析 [応用編]－構造方程式モデリング－』朝倉書店.
- 豊田秀樹 (1998) 『共分散構造分析 [入門編]－構造方程式モデリング－』朝倉書店.
- Tweeikat, Mashhour Mohammad; AL-Kaddah, Muhammad Ibrahim. (2014) The Degree of Applying the Theoretical Frameworks of Child-Raising Specialty Courses in the Field of Training among the Female Students of Princess Alia University College. *International Education Studies*, 7 (1) ,

102-111.

内田千春 (2018) 「アメリカ合衆国コロラド州における保育者のキャリアアップを支えるシステムの構築～園評価及び専門性指標、専門研修、養成教育を連動させる試みの調査報告～」『ライフデザイン学紀要』 13, 241-255.

和田典子 (2017) 「小学校『国語』教科書に学ぶ幼児教育の『言葉』教材: 言語コンピテンシーの獲得援助と言葉教材の実例」『姫路大学教育学部紀要』 10, 173-177.

Waldfoegel, Jane. (2009) Prevention and the Child Protection System. *Future of Children*, 19 (2) , 195-210.

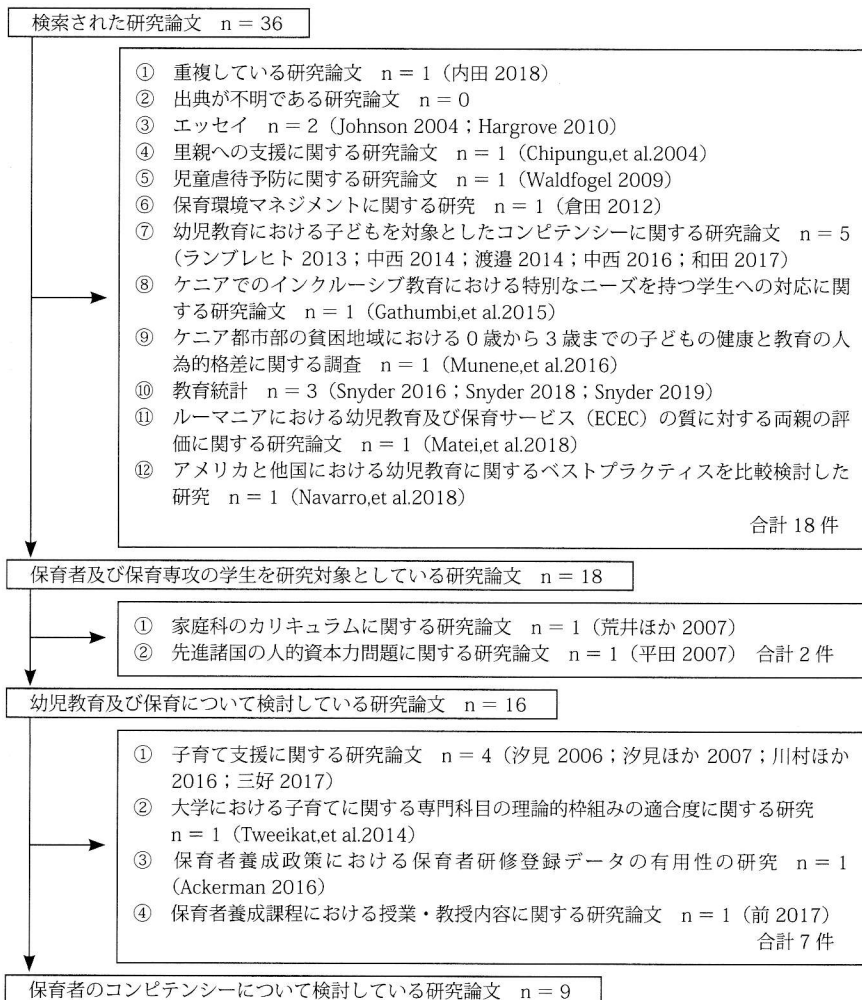
渡邊眞依子 (2014) 「保育におけるコンピテンシー形成に関する一考察: ドイツにおける鍵的コンピテンシーをめぐる議論を中心に」『愛知県立大学教育福祉学部論集』 63, 111-118.

山本智恵子・西村夏代・山口三重子・出井涼介・中嶋和夫 (2017) 「看護職者の共感に関連したストレス測定尺度に関する批判的論評」『新見公立大学紀要』 38, 57-64.

## 文末資料

## 文末資料 1 分析に必要な研究論文の選定の流れ

分析に必要な研究論文の選定を行った表を以下に記す。



## 文末資料 2 保育者のコンピテンシーについて検討している研究論文

選択した9編の先行研究について、「対象」「方法」「概要」別に整理した表を以下に記す。

番号	筆 者	対 象	方 法	概 要
1	高山 (2008)	保育士	文献研究	コンピテンシー理論の概要と医師の養成課程におけるコンピテンシー理論の活用方法を参考にし、保育士の専門性確保におけるコンピテンシー理論の有効性と限界について考察した。
2	Happo,et al. (2011) フィンランド	幼稚園教員	自由記述式質問紙調査 (内容分析)	幼稚園教員の能力を持つ幼児教育者の専門知識として、社会的な認識、組織的な知識・技術、子どもの成長に関する知識、協力とコミュニケーションの知識、教育的知識を明らかにした。
3	入江 (2011)	保育士・教師	文献研究	「保育士・教師のコンピテンシー」及び「ナラティブ能力」の大切さを考察した。
4	Ryan,et al. (2011) アメリカ	米連邦政府の育児支援施策であるヘッドスタートおよびチャイルドケアプログラムの指導者	インタビュー調査	保育者のためにコンピテンシーを明確にし、高等教育機関が幼児期の指導力育成プログラムを開発することを示唆している。
5	Aarkrog,et al. (2015) デンマーク	調理師資格を目指す学生 n = 6 幼児教育に関する資格を目指す学生 n = 20	観察調査 インタビュー調査	調理師資格、あるいは幼児教育に関する資格の取得を目指して入学した職業教育訓練大学の学生を対象にしている。このうち、幼児教育に関するコンピテンシーとして11項目を示した。
6	岡田 (2015)	保育士 n = 12 (インタビュー調査) 保育士 n = 40 (アンケート調査)	インタビュー調査 アンケート調査	インタビュー調査の結果から、コミュニケーション能力に特化したコンピテンシー要素として6要素を抽出した。その後、「保育士のコミュニケーション・コンピテンシー尺度」を作成して、保育士を対象とした「保育士のコミュニケーション能力養成講座」(5回)を開講し、講座前後及び半年後の効果測定を行った。
7	平田・井狩・ 相馬 (ほか (2016)	保育士養成課程に在学する短大生	実践記録の分析	保育業界のニーズに対応したキャリア開発科目・学習評価・インターンシップの高次化を推進した実践記録から、保育養成校のキャリア教育で求められる保育者のコンピテンシーは、一般の学士課程で求められる社会人の基礎力に共通するものであるとした。
8	中村・水上 (2016)	保育士 n = 340 介護福祉士 n = 640	アンケート調査	保育士と介護福祉士のコンピテンシーの抽出とコンピテンシー評価尺度を作成し、その信頼性と妥当性について検討した。
9	内田 (2018)	保育者	インタビュー調査 文献研究 観察調査	アメリカ合衆国コロラド州の園評価及び保育者の専門性指標と連動した研修システム開発に関する調査を報告した。

### 文末資料 3 保育内容に関する保育者のコンピテンシーについての研究動向

選択した9編の先行研究において、保育内容に関する保育者のコンピテンシーについての研究の対象、方法及び領域毎に整理した表を以下に記す。

番号	筆者	対象				方法		保育内容における領域				
		保育者	学生	介護福祉士	教師	定性的研究	定量的研究	健康	人間関係	環境	言葉	表現
1	高山 (2008)	○				○						
2	Happo,et al. (2011) フィンランド	○				○						
3	入江 (2011)	○			○	○						
4	Ryan,et al. (2011) アメリカ	○				○						
5	Aarkrog,et al. (2015) デンマーク		○			○						
6	岡田 (2015)	○				○	○					
7	平田・井狩・相馬ほか (2016)		○			○						
8	中村・水上 (2016)	○		○			○					
9	内田 (2018)	○				○						

### 文献資料 4 保育内容に関する保育者のコンピテンシーの先行研究における内容的妥当性と構成概念妥当性

	保育内容に関する保育者のコンピテンシーの先行研究	内容的妥当性			構成概念妥当	
		探索的因子分析			確認的因子分析	
		分析の実施	最尤法 または 最小二乗法	斜交回転	分析の実施	適合度
1	岡田 (2015)	×	×	×	×	×
2	中村・水上 (2016)	○ 因子分析	×	○ プロマックス 回転	×	×

## **Trends and Issues of Studies on the preschool and Nursery Teachers' Competency about the Contents of Childcare**

Yuko Inoue, Min-ho Kang, Junichi Takahashi, Yasuhiro Kuroki

In this study, we took up both domestic and foreign papers on the preschool and nursery teachers' competency, and intended to grasp trends and issues of studies on them, especially focusing on the contents of childcare. Web searches were conducted using 2 databases, "CiNii" and "ERIC". Finally, we paid attention to qualitative research and quantitative research of the nine papers on preschool and nursery teachers' competency, and examined whether the contents of childcare were referred to or not. As a result, there weren't qualitative research and quantitative research on preschool and nursery teachers' competency about the contents of childcare. The above result suggests that it's necessity to study the preschool and nursery teachers' competency about the contents of childcare.

Key words: Contents of childcare, Preschool and nursery teachers, Competency, Qualitative research, Quantitative research